

2023年倉敷昆虫同好会年末例会

2023年12月16日(土) 13:00 ~ 17:00 倉敷市立自然史博物館 地下講義室

今回は会場の設定に苦戦しました。しげい病院「かわせみホール」はまだ使用が認められず、また「はぁもにい倉敷」は土曜・日曜に常設の講座が設定されて使えなくなったため、急ぎよ倉敷市立自然史博物館で行うことになりました。会場としては申し分ないのですが、有料駐車場しかありません。しげい病院のご厚意で病院の駐車場を提供していただきましたが、少し遠いのが難点でした。今後、新しい会場探しが課題となってきました。なお、参加者は25名で、これはコロナ禍前の状態に戻りつつあります。



(1) 話題提供

「これができればみんなときめく ワクワドキドキ クワガタ採ろうぜ！」

磯野 裕昭 氏(倉敷市立自然史博物館友の会)

磯野さんはクワガタムシの採集に情熱を注いでおられ、2023年は63日もクワガタ採集に出かけて回ったポイントは402ヶ所、見つけたクワガタは1163頭という猛者です。

講話の中で紹介されたクワガタの生態には、大変興味深いものがたくさん含まれていました。とにかく自分の足で根気よくポイントを探ること、発見したらそこへ通い続けることが大切と強調されていました。最後に樹木を傷つけないこと、ゴミを残さないことなど、採集のマナーについても強く訴えておられました。

(記：事務局)



(2) 一般発表

「私のオススメの採集地 不思議な島 鹿久居島」 岡野 貴司 氏

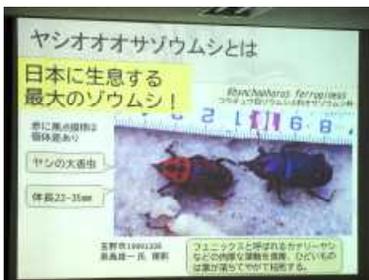
鹿久居島は花崗岩の山塊であり、小さな湿地が点在している。ここにヒメヒカゲ、ウラナミジャノメが生息し、近年数を減じているヘリグロチャバネセセリも観察できる。また岡山県ではかなり希なカンコノキがなぜか異常なほどに見られ、県初記録のカンコノスジヒメハマキなどこれをホストとするガ類が多数見つかっている。



またハマゴウの大群落があり、ここで発生しているハイロヒメシャクなども面白い存在。2023年に岡山県初記録となるホリシャキシタケンモンがウバメガシで大発生した。

「ヤシオオサゾウムシの岡山県での現状」 小橋 理絵子 氏

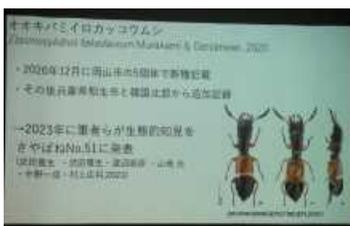
ヤシの大害虫であるヤシオオサゾウムシが 1999年に岡山県玉野市で発見されてから、今まで発生が確認されていりませんでした。このたび 2022年倉敷市で採られた標本が見つかりました。その周辺のヤシの被害調査や岡山県南部の最新の状況を紹介しつつ、侵入地点や被害拡大について考察しました。



「オオキバミイロカッコウムシの生態的知見」 武田 寛生 氏・武田 雅生 氏

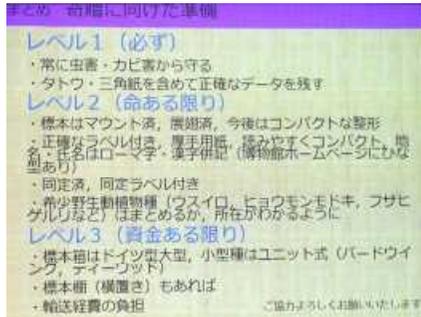
オオキバミイロカッコウムシ *Elasmocylidrus takedaorum* Murakami & Gerstmeier

は 2020年に岡山市をタイプ産地として記載された。その後兵庫県相生市および韓国で追加記録された。さらに2023年にナガシンクイを捕食する様子を観察することができ



た。今回の観察例については日本甲虫学会の和文誌さやばねニューシリーズ No.51 に発表した。(武田寛生・武田雅生・渡辺昭彦・山地 治・中野一成・村上広将,2023)

「コレクションを博物館へ寄贈する予定の方へ」 奥島 雄一 氏



「2023年北海道チョウ採集記」 難波 圭吾 氏



「昆虫観察2020～2023：溪流魚の食べたカミキリムシなど」 大森 斉 氏

私は、昆虫観察の他に溪流魚の釣りを趣味としており、両者を同時に楽しむ方法として、溪流魚の胃内容物から得たカミキリムシについて調査している。これは溪流魚を生きたトラップとして



利用し、溪流周辺の昆虫生態系を調べる方法として面白い。今回は、この方法による比較稀なカミキリムシの採集記録を紹介した。また、岡山市中区での、外来種テツイロヒメカミキリの県内2例目の記録についても報告した。



「2023年に観察したチョウ・ガの生態から」 中村 具見 氏

岡山県で半世紀以上にわたりチョウを見てきたが、今年くらいその数が少ない年はなかった。どこへ行っても普通種すら容易にその



姿を見ることができないという稀に見る不作年だった。辛うじて観察できたアカシジミやムラサキシジミの産卵行動、クロヒカゲの訪花・吸蜜シーンなどの興味深い生態をはじめ、偶然出会ったクロツバメシジミ、ガ類では初対面の



サンカククチバなどについて報告した。

「データの扱い方の一例、こうしたら便利」 山地 治 氏

読み	語句	品詞	登録性別	ユーザーコメント
あさひかまあしむし	Eosentomon asahi	名詞	ユーザー登録	
うだがわかまあしむし	Eosentomon udagawai	名詞	ユーザー登録	
かまあしむし	Eosentomon sakura	名詞	ユーザー登録	
くろしおかまあしむし	Eosentomon tokiokai	名詞	ユーザー登録	
さいこくかまあしむし	Baculentulus densus	名詞	ユーザー登録	
さとかまあしむし	Paranisentomon tuxeni	名詞	ユーザー登録	
たかなわかまあしむし	Filientomon takanawan...	名詞	ユーザー登録	
とさかまあしむし	Baculentulus tosanus	名詞	ユーザー登録	
ふたふしかまあしむし	Kenientulus japonicus	名詞	ユーザー登録	
みなみかまあしむし	Baculentulus nitidus	名詞	ユーザー登録	



「岡山市の重要生態系で得られた県未記録の小蛾類」 寺田 剛 氏

(公財)岡山県環境保全事業団が、岡山市の重要生態系に含まれる11地点で2022~2023年に実施した生物調査において、県未記録の小蛾類が14種確認された。この中には日本未記録及び未記載の種が各1種含まれる。



調査地はいずれも住宅地からほど近い身近な環境であり、各地点1回のみの調査で、灯火採集も実施せずこのような新知見が得られたことから、小蛾類につ



いては依然多くの県未記録種が存在するものと考えられる。



受付名簿による参加者(順不同): 寺田剛,磯野裕昭,岡本忠,中塚稔幸,難波圭吾,奥島雄一,江藤聖大,水井颯麻,加門昭徳,山地治,大森斉,小橋理絵子,守安敦,岡野貴司,三宅誠治,北村涼子,小野淳平,江木寿男,中村具見,武田寛生,武田雅生,吉永侑生,山本喜耶,山本ときお,原田八雲(25名)

【事務局より】

2024年3月23日の幹事会において、近年の同好会財政逼迫の現状を改善するために、次のような決定をしましたので、ご承知頂くとともに、ご協力をよろしく申し上げます。

○会費は2,000円のまま据え置く。

○機関誌「すずむし」をネット印刷に変更する。

画質は若干は低下するかも知れないが、印刷費は大幅に軽減される。

印刷所へ完成原稿を入稿する必要がある。

編集体制や印刷所選定は今後検討する。

○連絡紙「KURAKON」を原則ネット配信とする。

① ホームページの連絡紙 KURAKONには、今後は目次のみ掲載する。

会員には、メールにより送付する。(可能な場合、同居家族等のアドレスを含む)

ホームページ掲示板(会員用)に過去3年間のバックナンバーのみを掲載する。

(会員のIDおよびPWは、KURAKON103号に同封しますので、必ず保管願います)

、 が不可能な場合には印刷したものを送付する。

会員の皆様へお願い

連絡紙「KURAKON」が次の104号(2024年7月)からネット配信に変更されますので、**各会員のメールアドレスをご連絡ください。次のメールアドレスに、お名前 会員番号とともに「このメールアドレスに送信してください」と書いてお送りください。**また、今後メールアドレスが変更される場合は直ちに事務局にご連絡ください。**e-mail kurakon@shigei.or.jp**

メールアドレスをお持ちでない方には印刷したものを発送をしますので、その旨を事務局まで電話(倉敷昆虫館の休館日を除く)かハガキ等でご連絡ください。どちらのケースも締め切りを2024年5月末といたします。

「一泊採集観察会のご案内」

例年、倉敷では県内の興味深い場所に有志が参集し調査会を行って来ました。そして今年は、名前を一泊採集観察会とあらためて実施することにしました。場所は鏡野町(旧富村)で、恩原や蒜山高原にも近い所です。参加希望者は下記の申込先にご連絡下さい。

日 程 令和6年7月20(土)～21日(日)

宿泊場所「とみ山荘」 苫田郡鏡野町富西谷 (<https://tomisansou.com/tomisansou/index.html>)

宿 泊 料 一人6,300円 (一泊朝食付き) 夕食は別途集金

日中は、各自自由に採集・観察を楽しんで下さい。その後、午後6時に宿泊場所に集合して下さい。

宿泊者は、夕食とミーティングを午後7時に予定しています。

悪天候でなければ夜間に燈火採集を行います。夕食とミーティング

は、宿に併設されている四川料理店「天府苑」で、会費2,500円で

行います。宿に浴衣はありませんので、パジャマ等を持参下さい。タオルやシャンプー、石けんは準備されています。参加申込は6月30日を締め切りとしますが、期限を過ぎても宿に余裕があれば可能な限り受け入れます。

申込先 三宅 : miya@tamano.or.jp 090-7502-8468



<<岡山むしカフェの紹介>>

倉敷昆虫同好会の行事ではないのでご存じない会員の方も多いと思いますが、岡山駅西口近くの国際交流会館研修室で、2015年からこれまでに10回開催してきました。「カフェ」と言ってもお茶が出るわけではなく、カフェのように気軽な雰囲気興味ある人なら誰でも訪れて昆虫の話をしようというものです。会員制ではないので、会場費300円(未成年は無料)を払えば誰でも参加でき、虫屋や専門家をはじめ単に自然が好き人も、また県外から参加の方もいます。土曜日の午後2時から5時までの3時間に、まず有志数名による講演を2時間ほど聞いた後、各人が近況や興味ある虫に関する話をして交流を深め

ます。カフェの終了後には、近くの居酒屋で懇親会も開きます。今年は3月30日開催で既に終わってしまいましたが、講演は次の六題でした。

- (1) ボウランの受粉昆虫としてのシロテンハナムグリ他・・・高崎 浩幸
- (2) ベニトンボの分布拡大・・・守安 敦
- (3) 2023年の美作市、佐用町周辺の昆虫について～シンジュキノカワガが大発生
～・・・末宗 安之
- (4) キマダラルリツバメ母蝶採卵からの飼育記録・・・松尾 泰幸
- (5) 広島県東部のヒサマツミドリシジミ・・・三宅 誠治
- (6) ButterflyScape 蝶 風景・・・藤本徹哉

過去の様子は下のブログをご覧ください。次の開催日が近づくと案内も掲載します。

<http://okayama-mushicafe.blog.so-net.ne.jp/>

お尋ねなどあれば三宅までメール等でご連絡下さい。miya@tamano.or.jp

倉敷市立自然史博物館の催しもの案内

特別企画展「倉敷市立自然史博物館秘蔵お宝展 第2弾」

会期：4月20日(土曜日)～6月30日(日曜日)

会場：特別展示室 料金：通常料金

展示内容：吉田嘉男コレクション、赤枝一弘コレクションほか

お問い合わせ：086-425-6037

(奥島雄一 倉敷市立自然史博物館)

【2013年以降、倉敷昆虫館へ寄贈された昆虫に関する主な図書】

書名	篇・著者	発行者	寄贈者
原色日本チョウ類生態図鑑	福田晴夫 著	保育社	倉敷市立自然史博物館
チョウはなぜ飛ぶか	日高敏隆 著	岩波書店	
沖縄探蝶紀行 蝶の島	三木卓 著 (写真) 栗田貞多男	桐原書店	
香川県のカミキリ	小笠原隆・高木真人・和田洋介 著	高木真人	
広島県のチョウ	広島虫の会	中國新聞社	
チョウはなぜ飛ぶか	日高敏隆 著	岩波書店	
信州の昆虫	松本虫の会	松本虫の会	
昆虫とあそぼうよ	奥島雄一 倉敷市立自然史博物館	倉敷市立自然史博物館	
バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑	日本直視学会編	北海道大学出版会	脇本 浩*
身近な観察図鑑 虫のおもしろ私生活	ピッキオ編著	主婦と生活社	
日本蛾類標準図鑑()	岸田泰則編	学研教育出版	
日本蛾類標準図鑑()	岸田泰則編	学研教育出版	

日本蛾類標準図鑑()	岸田泰則編	学研教育出版	
日本蛾類標準図鑑()	岸田泰則編	学研教育出版	
世界のタマムシ大図鑑	秋山黄洋・大桃定洋 著	むし社社	
日本産カミキリ大図鑑	日本鞘翅目学会編	講談社	
日本産タマムシ大図鑑	大桃定洋・福富宏和 著	むし社社	
日本産蝶類標準図鑑	白水 隆 著	学習研究社	
日本産トンボ大図鑑 図版編 解説編	浜田 康・井上 清 著	講談社	
日本水草図鑑	角野康郎 著	文一総合出版	
図説日本のゲンゴロウ	森正人・北山昭 著	文一総合出版	
日本産コガネムシ上科図説 第1巻 食糞群<普及版>	川井信夫ほか編・著	昆虫文献 六本脚	
日本産コガネムシ上科図説 第2巻 食葉群	酒井香・藤岡昌介 著	昆虫文献 六本脚	
日本産コガネムシ上科図説 第3巻 食葉群	小林裕和・松本武 著	昆虫文献 六本脚	
日本産カミキリムシ	大林延夫・新里達也共編	東海大学出版会	
日本のネクイハムシ	林成多 著	むし社	
虫たちの祝宴 雑木林の博物誌	大屋厚夫 著	出版芸社	
狩蜂生態図鑑	田中義弘 著	全国農村教育協会	
絶滅危惧の昆虫辞典	川上洋一 著	東京堂出版	
素数ゼミの謎	吉村仁著・石森愛彦絵 著	文芸春秋	
虫のフリ見て我がフリ直せ	養老孟司・河野和男 著	明石書店	
蝶をもとめて	河邊誠一郎 著	和光出版	河邊誠一郎**
サハリンの蝶	朝日純一ほか 著	北海道新聞社	
幸せを運ぶ 世界の蝶と蝶ことば	西山保典、中江 信 著	木曜社	
幸せを運ぶ 世界の蝶と蝶ことば	西山保典、小林禎彦 著	木曜社	
幸せを運ぶ 世界の蝶と蝶ことば	西山保典、小林禎彦 著	木曜社	
札幌の昆虫	木野田君公 著	北海道大学出版会	重井文博***
中・四国のトンボ図鑑	杉村光俊ほか	いかだ社	
日本原色虫えい図鑑	湯川純一・柘田 長 編著	全国農村教育協会	中筋房夫***
日本原色アブラムシ図鑑	森津孫四郎 著	全国農村教育協会	
植食性金龜(台湾生物圖鑑) 2	余清金・朱耀沂・小林裕和 著	木生昆蟲有限公司	
フィールド図鑑 チョウ	日高敏隆 監修	東海大学出版	
ESAKA No.44	九州大学院農学研究院昆虫学 教室	九州大学院農学研究院昆 虫学教室	
CATALOGUE OF COLEOPTERA	ルイス 編著	日本甲虫学会ルイス顕彰 発起人1992/5/	
広島県昆虫誌	比婆科学教育振興会 中村慎吾 編集	広島県昆虫誌刊行会	
広島県昆虫誌	比婆科学教育振興会 中村慎吾 編集	広島県昆虫誌刊行会	
日本産昆虫の英名リスト (附主要外国種の英名)	矢野宏二 編著	東海大学出版会	
佐々 学 学長退官記念誌	富山医科薬科大学内佐々学学 長退官記念事業会	富山医科薬科大学内佐々 学学長退官記念事業	
笹川満廣先生定年退職記念誌			

昆智貴会 会報特別号	塚本珪一 著	京都府立大学昆智貴会	
なべふたむし神戸大学農学部昆虫科学研究室50周年記念号	神戸大学昆虫科学研究室・同窓会	神戸大学昆虫科学研究室・同窓会	
日本生物誌 第四巻昆虫上巻	古川晴男 編集	研究社	
日本生物誌 第五巻昆虫下巻	古川晴男 編集	研究社	
武蔵野昆虫記	石井 悌 著	三省堂	
狩人蜂 その生態と心理	常木勝次 著	北方出版社	
大学叢書 昆虫學通論	三宅恆方 著	臺灣商務印書館發行	
蜂の生活	岩田久仁雄 著	弘文堂	
蝶分布と系統 日浦 勇選集	日高敏隆他 編集	蒼樹書房	
日本昆虫記 ハチの生活	岩田久仁雄・古川晴男・安松京三 編集	講談社	
日本昆虫記 ハチとアリの生活	岩田久仁雄・古川晴男・安松京三 編集	講談社	
ミツバチの科学	岡田一次 著	玉川大学出版部	
虫たちと不思議な匂いの世界	玉木佳男 著	社団法人日本植物防疫協会	
昆虫誘引物質	平野千里 著	(財)東京大学出版会	
蟻と人生	安松京三 著	東京洋々書房	
砂の魔術師アリジゴク進化する捕食行動	松良俊明 著	中公新書	
月刊 たくさんのふしぎ373号「昆虫の体重測定」	吉谷昭憲 著	福音館書店	吉谷昭憲
蝉類博物館 昆虫黄金期を築いた天才・加藤正世博士の世界	練馬区立石神井公園ふるさと文化館	練馬区立石神井公園ふるさと文化館	練馬区立石神井公園ふるさと文化館
生駒山ろくの虫たちの空間探検 おもしろい虫の世界	成田弘顕彰会	成田弘顕彰会	成田弘顕彰会
玉川百科 こども博物誌 昆虫ワールド	小原芳明 監修 小野正人 / 井上大成 編	玉川大学出版部	玉川大学出版部
ハチを知る 平成30年度特別展	埼玉県立自然の博物館	埼玉県立自然の博物館	埼玉県立自然の博物館
日本産ヒラタムシ上科図説 第2巻	平野幸彦 著	昆虫文献 六本脚	岡本 忠*
NO RECORD FOUND CERTIFICATE - 759 insect	岩崎広大 著	岡田 翔	岩崎広大
昆虫食 とる・つくる・たべる	伊丹市昆虫館	伊丹市昆虫館	伊丹市昆虫館
狩蜂生態図鑑	田中義弘 著	全国農村教育協会	?

(注) 同好会員* 元同好会員** 同好会顧問***

【交換文献】

(2023.11.10~2024.3.28受付)

比婆科学(277)	比婆科学教育振興会
駿河の昆虫 (284)	静岡昆虫同好会
ちゃつきりむし (217)(218)	〃
庄原市立比和自然科学博物館 標本資料報告 (27)	庄原市立比和自然科学博物館

比和自然科学博物館研究報告 (65)	"
みちしるべ(60)	岡山昆虫談話会
とっくりばち(91)	石川むしの会
Nature Study 69(11)・(12) 70(1)-(3)	大阪市立自然史博物館友の会
げんせい (99)	高知昆虫研究会
インセクト 174(2)	栃木昆虫愛好会
蛾類通信(308)	日本蛾類学会
TINEA 27(2)	"
ゆらぎあ(41)	鳥取昆虫同好会
へりぐる(45)	瀬戸内むしの会
誘蛾燈255)	誘蛾会
誘蛾燈(227～254総目次)	誘蛾会
Mushi Mezuru(55) 交換終了	鈴木 裕
ホシザキグリーン財団研究報告(27)	ホシザキグリーン財団研究
ホシザキグリーン財団研究報告特別号(33)	"

【寄贈図書】(倉敷昆虫館および同好会へ)

(2023.11.10～2024.3.28受付)

書名	著者	発行所	寄贈者
ウスイロヒョウモンモドキ	難波通孝	山陽新聞社	難波通孝
2023年度ホシザキグリーン財団 環境修復プロジェクト報告	ホシザキグリーン財団	ホシザキグリーン財団	同左

<倉敷昆虫同好会 連絡先> 年会費 2,000 円 郵便振替口座 01210 - 2 - 6927
〒710-0051 倉敷市幸町2-30 倉敷昆虫館内 倉敷昆虫同好会事務局
TEL . 086-422-8207(直通) FAX . 086-421-1991 E-メ-ル kurakon@shigei.or.jp
開館：午前9時30分から午後5時まで(13:00から14:00は閉館)
休館日：月曜日(祝日・休日の場合は開館し、翌日が休館) 12月29日から1月3日
倉敷昆虫同好会ホームページ： <https://www.shigei.or.jp/kurakon/>